|  |  |
| --- | --- |
| 令和2年2月19日（水） | 資料2 |
| 令和元年度第3回自立支援協議会 | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 部会名 | 令和元年度　第2回　高次脳機能障がい部会 | | |
| 日時 | 令和元年12月2日（月）　18：20～20：30 | | |
| 場所 | 板橋区立グリーンホール　1階ホール | | |
| 参加者 | 41名（医療関係者21名、福祉等支援者18名、当事者・家族2名） | | |
| 会議の公開（傍聴） | 公開 | 傍聴者数 | 2人 |
| １　説明及び報告事項  （１）板橋区地域自立支援協議会の説明（板橋区障がい者福祉課）  （２）平成30年度高次脳機能障がい部会の報告（板橋区障がい者福祉課）  （３）令和元年度高次脳機能障がい部会の方針説明（會田部会長）  （４）区市町村高次脳機能障害者支援促進事業支援員連絡会の報告  （板橋区立障がい者福祉センター、東京都心身障害者福祉センター）  （５）高次脳機能障害支援普及事業について  （区西北部高次脳機能障害支援普及事業　豊島病院　中島英樹医師）  ・上記５項目について、各括弧内の機関より説明及び報告を行った。  ・特に（３）において、高次脳機能障がい者の社会参加促進に向けた更なる連携を図るために、これまで行ってきた講演会、事例検討、事業所紹介といった内容に加えて、支援者間で情報交換を行う連絡会形式での部会を開催していく旨を報告した。  ２　情報交換  ・各事業所より、事業紹介と現状課題、及び情報シートを用いた連携事例の発表を行った。  【主な課題・質問】  ・若年の高次脳機能障がい者が親からの自立を考える際に、日中のサービスを受けられる場所が少ない。  ・失語症があるが身体症状に影響がない方が外来で失語症のリハビリを受けられる機関が少ない。  ・復職訓練時の就労移行支援や日中サービスの事業所の利用に苦労する。  ・会社に籍のある高次脳機能障がい者の就労系サービスの利用について、国は許可しているが以前板橋区において断られた経緯がある。その点について、現在どのようになっているのか。  →都心障：需要を鑑みて国もガイドラインを示したが、具体的な対応は各自治体に任せられている。  →福祉課：支給決定を行っている福祉事務所の障がい者支援係と情報の共有をして検討したいと思う。  【連携相談事例】  ・（医療機関→地域活動支援センター）脳出血の後遺症で失語症、記名障がい、地誌的障がいを伴った状態で地活の利用を開始した。当初は後遺症に悩まされたが他利用者との交流がリハビリとなり、入院中は重い後遺症を予想された方が現在では目立った障がいは見られない状態となった。  ・（他自治体病院→区内病院）転入に伴い、精神障害者保健福祉手帳を取得するための診断書が必要となった。当該患者は通院中の病院からは診断書作成を断られたとのことで区内病院にて診断書の作成を行った。 | | | |

|  |  |
| --- | --- |
| 部会名 | 令和元年度　第3回　高次脳機能障がい部会 |
| 日時 | 令和2年1月21日（火）　18：20～20：35 |
| 場所 | 板橋区立文化会館4階　大会議室 |
| 参加者 | 53名（医療関係者19名、福祉等支援者25名、当事者・家族9名） |
| 区西北部高次脳機能障害支援普及事業（豊島病院）と共催  （1）事例検討会（事例発表、グループワーク、各グループより検討内容の発表）  （事例発表者：板橋区立障がい者福祉センター　石川直幸氏）  　　 事例：復職を希望する高次脳機能障がい者  　　　　　 50代　男性（検討事例とする事について、ご本人、配偶者様のいずれもご了承済み。）  　　　　　 高次脳機能障がい（記憶障がい、遂行機能障がい、失語、失行）。  　　　　　 軽度の右片麻痺。動作はゆっくりであるが、ADL（日常生活動作）は自立している。  　　＜主な検討内容＞  　　・現在、復職期限まで残り11ヶ月の状況である。この先の支援の進め方として、パターンＡ～Ｃの内、どの支援が適当であると考えられるか。また、そう考えた理由は何か。  　　・当ケースの場合、医療、高齢、障がい部門においてどのような関わりが必要であると考えられるか。  　　＜グループワーク、発表＞  　　・配置転換含め、まずは復職先の企業と交渉する場が必要ではないか。その際、ご本人の状況を客観的に企業へ説明することの出来るジョブコーチやセラピストが同行すると良い。  　　・働く選択が本当に良いものなのか。改めて、ご本人の意思を確認しても良いのではないか。  　　・どのような立場で復職するかによって、作業も異なり、必要なプログラムも変わってくる。  　　＜アンケート内容＞  　　・それぞれの支援プランについてメリットデメリットが記載されていて、分かりやすかった。  　　・他機関の考え方や意見を聞くことが出来て有意義だった。自分の中で選択肢が増えた。  　　・支援の方向性を検討するために、ご本人の能力や意思について、より詳しく資料に記載してあると更に分かりやすくて良いと思う。  　　・グループごとの検討や発表だけではなく、会場全体で共有し深めるものがあると良い。  （2）お知らせ（高次脳機能障がい部会より）  　　・部会員一覧表について、要望書の提出について、部会準備会について  ・アンケート回答のお願い  （3）その他  ・各関係機関より、家族会、フォーラム等の案内があった。  （4）次回予定  日時：令和2年5月19日（火）午後6時20分から  場所：板橋区立グリーンホール　2階ホール  内容：高次脳機能障がい者支援に携わる事業所、医療福祉関係者による「情報交換連絡会」 | |